

さけ・ます増殖事業振興調査（親魚回遊経路調査） （抄 録）

後藤悦郎

前年度に引き続き沿岸、神戸川、高津川について採捕した親魚の回帰尾数、体長組成、体重組成、年令組成などを調査した。また、江川について親魚回帰時期に河川を巡視してその状況を観察した。なお、詳細は別に報告書（島水試資料No.36）があるので参照されたい。

要 約

1. 本県沿岸、神戸川、高津川でシロザケ回帰親魚を採捕した所、沿岸23尾、神戸川43尾、高津川45尾の合計111尾を数えた。また、江川では66尾を観察した。
2. 年令は3年魚が主体で各々62～76%を占めた。次いで4年魚が多く、その他2年魚、5年魚が若干認められた。
3. 採捕時期は海面が10月中旬～11月中旬、神戸川は10月下旬～11月中旬、高津川は10月下旬～11月下旬であったが、江川は10月中旬～12月中旬に観察されているので他の2河川も12月中頃まで回帰していると思われる。
4. 雌雄は全体では雄が $\frac{2}{3}$ 、雌が $\frac{1}{3}$ であった。特に高津川では雄が80%と多かったが、逆に神戸川は雄が50%以下であった。
5. 各河川とも大きいため全数採捕（観察）が困難であり、漁獲（観察）努力、天候や河川の諸条件により採捕率が異なる。従って資源の増減についてはある程度感覚的になるが、昭和58年春から毎年北海道卵をふ化飼育し、100万尾程放流している高津川では顕著な採捕数の増加がないので放流結果は現在までの所あまり無いと思われる。また、沿岸、神戸川、江川についても増減はあまり無いと思われる。
6. 回帰親魚の大きさは平均全長62～64cm、平均体重2.2kgで前年度よりかなり小型化した。
7. 天然親魚からの採卵数は神戸川で28,500粒、高津川で5,200粒、放流数は神戸川で2,500尾（1.8g）、高津川で4,900尾（0.7g）であった。
8. 北海道卵をふ化場でふ化飼育した稚魚は天然親魚の天然産卵した稚魚の小型のものと大きさが同じで、低水温のため成長速度は劣っていた。
9. 高津川における稚魚の降海時期は天然ふ化稚魚では3月末迄に、放流稚魚（3月19日、4月1日に放流）は4月中頃迄に大方降海を完了した。